

# 日光の未来像は

## 第一回検討委員会を開く

「日光の将来はいかにあるべきか……」  
市では、今年の七月から東京のコンサルタント、浜野商品研究所（浜野安宏社長）に調査を委託し、日光市の未来像づくりに取り組んできましたが、九月末に第一段階の調査が終了し、検討段階に入ったため「第一回日光市未来像策定

検討委員会」を十月十九日市役所大会議室で開きました。

この委員会は、未来像策定にあたり住民の意向をじゅうぶん反映させるため、市内の各界各層の代表者二十二人を委嘱し、今後日光がどうあるべきかを検討するものです。

斎藤市長のあいさつのもと、浜野社長から「町づくりは住民自ら行うものである。新しい時代にふさわしい計画策定を行うとともに

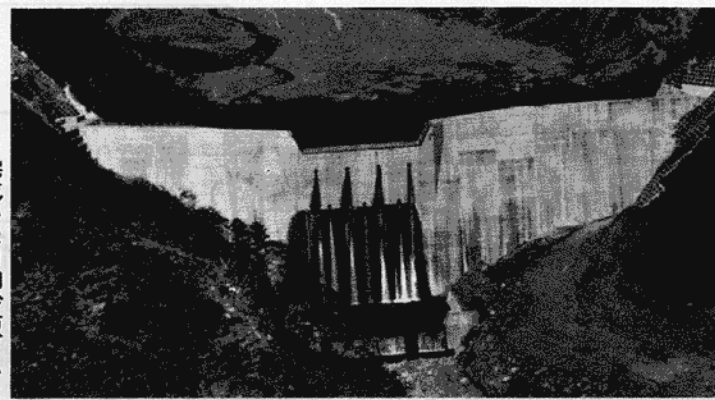
抽象的なものや、単なる報告書だけで終わることなく、実現性の深いものを提言したい」と述べ、基本的な考えを示しました。

このあと「観光及び観光地、観光都市のあり方」「市内各地域の特性と振興ビジョンを探る」の二つをテーマに検討会に入り、各委員から活発な意見が出されました。今後、毎月同委員会を開き、出された意見を参考に、年内には中間報告書をまとめ、来年三月中

には、日光市のあるべき姿「未来像」が示される予定です。

●日光市未来像策定検討委員会委員（アイウエオ順、敬称略）

- ▽伊藤文也（中宮祠）▽上山淑子（七里）▽大橋孫一（東小来川）
- ▽岡崎彰広（中鉢石町）▽小平常夫（中宮祠）▽柏木毅（石屋町）
- ▽加藤安三（松原町）▽神山宏（細尾町）▽上吉原元次（和泉）
- ▽河合常雄（石屋町）▽喜田川清香（山内）▽小金山正明（中宮祠）
- ▽小西陳雄（山内）▽小林資夫（湯元）▽佐藤節夫（滝ヶ原）▽手塚通太（松原町）▽中村昭貞（丹勢町）
- ▽福田隆（清滝二）▽福田元一（上鉢石町）▽福田良雄（安良沢町）▽本木久雄（安川町）▽谷田貝憲介（所野）



完成した日向砂防ダム

# 九年の歳月をかけ完成

## 46メートル世界一の高さ 日向砂防ダム

建設省日光砂防工事事務所が、昭和四十九年から九年の歳月と四十三億六千万円の巨費を投じて、稲荷川に建設を進めていた「日向砂防ダム」が完成し、十月二十二日竣工式が行われました。

同ダムは、大谷川との合流点からおよそ五キロ上流に建設された重力式コンクリートダムで、体積は約十立方メートル、ダムの高さは四十六メートル、長さは百七十三メートル、単独の砂防ダムとしては高さでは世界一といわれています。近年では最も

大きい昭和四十一年九月の二十六号台風で、日向の上流から流出した土砂量の四倍の貯砂量百二十八万立方メートル（既設分を合わせると百五十万立方メートル）をもつという大きいものです。

稲荷川は大谷川の左支流で、女峰、赤難山が水源となっていて、流域面積は十二・四平方キロ、流路延長九・八キロという小規模な河川ですが、昔から荒れかたは激しく、中でも寛文二年（一六六二）には、土石流のため三百余人の死者を出

したのをはじめ数々の災害を記録しています。

こうした災害を防止するため、大正七年から砂防ダムの建設事業が進められ、これまでに大小二十三基が建設されましたが、これら小規模なダム群だけでは効果も薄く、早急な防災対策が急がれていました。

日向砂防ダムが完成したことによって稲荷川上流部の土砂の流出を防ぎ、稲荷川の安定に大きく貢献するものと期待されています。

### 表紙シリーズ

## 市民の中に 生きる文化財

### 花石神社のケヤキ

花石町の国道から神社の参道へ入り、石鳥居の手前右側にある。参道はケヤキの立地より約一メートル低く、樹幹の西側はこの低地へかかっており、路面約八メートルにわたって根株の一部が露出している。

地上約五メートルのところから二本の幹に分岐しているが、その北側のものは損傷のため中途で切断されており、また南側のものの東面はその高さの約五分の二にわたって木質部が露出している。

本樹には瘤状の隆起が多く、ために単幹部は異常に肥土して特異の樹姿をなし、いわゆる瘤樺の状を呈している。

樹高二二メートル、根本幹回入五六メートル、自通幹回り七・五メートル、樹勢は稍不良である。

ちなみに、当花石神社は往古から山嶽に鎮る十八神を祀り、十八王子と称したが、このケヤキはその由緒を伝える老樹である。（日光市指定の文化財より）

（昭和四十一年六月指定・指定第九号）